

体育協会記者クラブ・JOC 記者会 御中

東京大学大学院工学系研究科
池上 孝則

記者説明会におけるご挨拶

謹啓

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

本日は、ご多忙の折にも関わらず当方の記者説明会にご参加頂き、誠にありがとうございます。

本件は、スポーツの世界で規範となるべき公益財団法人日本陸上競技連盟が自らその魂であるフェアプレイの精神を踏みにじるという行為に対して、我々国民およびジャーナリズムの対応が問われている問題であります。

2020年の東京オリンピックのホスト国としての資質に係わる問題でもあることから、緊張感をもって、そして毅然とした姿勢で臨まなければ後世に禍根を残す結果になるでしょう。

今後のスポーツのあるべき姿、そして日本が歩むべき方向を皆様とともに考えつつ、泥を被る覚悟でこの問題に取り組んでいこうと考えております。

ところで、マラソンの記録の規格化の研究も、早いもので開始から十年余りが経過いたしました。その間、Web サイト「ハートフルランナーズ」での情報提供大会数も当初の 8 大会から 64 大会に増え、補正タイムのフェアタイムへの改称、精度の併記、国際大会への拡張など、研究は日々進化を続けております。

そしてこの度、「フィニッシュタイム変換システム」が完成いたしました。

この「フィニッシュタイム変換システム」とは、各大会の完走者の記録(グロスタイム)を他の大会の結果として変換するという、世界初の画期的なシステムです。

当該システムでは、Web サイトでフェアタイムを公開中の 64 大会に加え、2004 年以降のオリンピック競技大会(アテネ、北京、ロンドン)及び世界陸上競技選手権(ヘルシンキ、大阪、ベルリン、大邱、モスクワ)への相互変換が可能となっております。

世界の誰もが想像すらしなかったこうした先進的なシステムを開発することができましたのも、皆様のご協力の賜物であることは言うまでもありません。

改めまして、今日までのご厚情に篤く御礼を申し上げます。

当該システムの普及も含め、これからも皆様にとってお役に立てるよう研究や活動を加速させる所存でおります。今後ともご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

敬白

P.S.

フェアタイムを算出する仮想測定系システム(Virtual Measurement System:VMS)はマラソン以外の多方面への応用が可能ですが、この度、多くの大学入試関係者を煩わしていた大学入試センター試験の得点調整への応用を提案いたしましたので、関連資料を同封させて頂きました。